

經濟論叢

第九十三卷 第二號

經濟学史の本質と類型……………	出口 勇 藏	1
シェーカーズ……………	穂 積 文 雄	26
ハロッド不安定性原理について……………	白 杉 剛	49
生産点における 『合同機械工組合』の機能(一)……………	熊 沢 誠	60

昭和三十九年二月

京 都 大 學 經 濟 學 會

シエーカーズ

穂積文雄

八

わたくしは、これまで、シエーカーズのなりたちをうかがってきた。そして、ルシイ・ライトが主宰する時代に入り、そこで、シエーカーズの発展史の上で、二つの大きなできごとがおきたことを、指摘しておいた。一つは、シエーカーズの秩序・組織の確立であり、いま一つはシエーカーズの西部・南部への進出・拡大である。¹⁾ おきた順序からいえば、秩序・組織の確立の方がさきである。だから、まづ、それから、うかがうべきである。しかし、まえにも述べたように²⁾、その秩序・組織については、いづれ、あらためて、うかがうはづである。そこで、それは、その折りにゆづるを適當とかんがえる。したがって、いま、ここでは、その西・南部への進出・拡大について、うかがうであらう。

それでは、それは、いかにあったであらうか

おもしろいことに、シエーカーズの西部進出は、いわゆる宗教復興の波(the wave of religious revival movement)に乗ったものである。そのことは、さきに引いた、年代記および、ウェッバー氏の記述によっても、うかがえるところのごとくである。たしかに、シエーカーズの西部進出は、宗教復興の波に乗ったものである。それに、

ちがいは、ない。しかし、宗教復興の波に乗るといふことは、別にこの場合にかぎつたことではない。それはことあたらしいことではない。シェーカーズの源流とみられるフレンチプロヘッツの発生の場合がそうである。そのことは、わたくしたちのすでにみたところである。いな、シェーカーズの出現そのものが、すでに、そうである。そのことは、われわれの、すでにしるしたところである。そして、その東部地方での信者獲得が、また、そうである。そのことも、また、わたくしの、さきに、あきらかにしたところである。かくて、それは、ひとり、シェーカーズの西部進出の場合だけのことではない。それはいうまでもないところである。それは、いなみがたい事実である。しかしながら、この場合には、それが、もつとも顯著に、あらわれている。それも、また、いなみがたい事実である。したがつて、それは、この場合、その典型的なものとみることができよう。それだけに、その事情をあきらかにすることは無意味ではない。そうかんがえることが、できよう。すくなくとも、わたくしは、そうかんがえる。さらに、それが、そのように顯著にあらわれ、典型的にあらわれているということは、それがシェーカーズの西部進出の特徴であることを、いなみがたくするであろう。かくて、シェーカーズの西部進出をうかがうとするわたくしのペンは、まず、その宗教復興にむけられなければならないことになる。

それでは、それは、いかにあつたか。

それをあきらかにするためには、さかのぼつて、そもそも、宗教復興とはいかなるものであるかをきわめなければならぬであろう。では、宗教復興とはいかなるものであるか。

宗教復興とは、もと、一つの教会、一つのコミュニティー、または、一つの地域における宗教的信仰および奉仕サビビスへの熱中の維新アテンションの謂である。それは、宗教心の沈滞・停迷の時期のあとにおこるを普通とし、強烈な熱情の奔

騰を特徴とする。そして、この熱情の奔騰は急速に伝播する。だれきつたもの、どうでもよいといったような信徒ペリバイズが、覚醒して、新鮮な献身フレッシュ・ニュー・デボーションをしたり、またつみふかいひとびとが（ときとして、非常に多勢で）よびさまされ、宗教的な信念とみちびきの下に、よりよい思考・生活へかりたてられる。そういう現象である。それは、キリスト教においてよくいわれる。ことばは、わりに、あたらしい。十八世紀にはじまる。しかし、ことがらは、きわめてふるい。教会の歴史とともにふるい。その初期からみられる。そのことは、聖書の中のもの、がたりが証している。

中世をへて近世にいたるキリスト教の発展史は、うつりかわる事情により、起伏エリフ・バウ・マウンテンをなす。しかし、そこには、情熱の奔騰が、ときどき、おこっている。十四世紀から十六世紀にわたるプロテスタント・ムーブメントの発展は、ウイルクリフ、フス、ルッター、カルビンらのような指導者の強烈な推進力の下における一連のリバイバル・ムーブメントとみることが出来る。しかしながら、ヨーロッパにおける、いわゆる、リバイバルズは、一七三七年、イングランドにおいて、ジョンおよびチャールズ・ウエスリー（John and Charles Wesley）とジョージ・ホワイトフィールド（George Whitefield）の下における覚醒アウエックニングにはじまる。かれらの指揮の下に、たびまわりの労働者や地方の労働者、牧師の団体が、メソジスト・エバンジェリズムの精神を、おどろくべき速度で、グレートブリテンから、アイルランド、ウエールズ、さらに、海外へ弘布した。このヨーロッパにおけるムーブメントと、ほとんど、ときをおなじゅうして、一大覚醒が、アメリカに発生した。一八世紀末から一九世紀初頭にかけて、南部および西部のあたらしい諸州が宗教的昂奮の波にみまわれた。この宗教的昂奮は感情の昂奮エキサイトメントと肉体による表エクスプレッション現をともなうものであった。そして、このムーブメントは、一七九七年ジームス・マックグリーディー

（James McGready）の説教の下に、ケンタッキーにおいて、はじまった。それは野天の下にひらかれたミーチン

グからキャンプ・ミーチングへと発展した。

それでは、それは、どう発展したか。

例の年代記は、こうしるしている。

一八〇一年、異常な神のわざが、ケンタッキー、および、その周辺にはじまり、あかしが、この西部にあらわれるための道をひらいた。かくて、一八〇五年正月元旦、三人の使者、すなわちジョン・ミーチャム (John Meacham)、ベンジャミン・S・ヤングス (Benjamin S. Youngs)、および、イサカル・ベート (Issachar Bates) が、聖霊のみちびきとコンミニチーの総意の下に、えらばれて、ニー・レバノンの教会よりケンタッキーおよび、その周辺の、リバイバルのひとつのところで、つかわされた。かれらは、多くのリバイバルの第一級の指導者たちによって、丁重にむかえられ、その他のひとたちによって、白眼でみられた。

シェーカーズのおしえはオハイオ河の南北にひろまった。そのあかしは、その地方の何百人ものところの中に、かたく、うえつけられた。そして、そのおしえは、いま、なお、隆盛をほしいままにしている。

そして年代記は、さらに附記している。

あかしが上記の地方にあらわれてより、反対・質疑を通じて、人心は、非常に沸騰した。そして、多くのひとびとは、びつくりした。それは、かれらが、人智にとつて、かくも不十分とおもわれる手段によって、かくも偉大な結果がもたらされたのを、みただからである。すなわち、かくまで多くの、名声のたかいひとびと、高潔なひとびと、それに、篤信なひとびとまでもが、名譽・富・現世の快楽を、これまでの教理の上になりたつ後生のねがい (hope of salvation) もろとも、なげうって、いやしい女のあかしの上にうちたてられたといわれる信仰をいだくひとびと

とと、まじわりをむすぶのを、みたからである。

そして、つぎのごとくむすぶ。

しかしながら、まことにつみをしり、いかにしてもすくいを得んとするひとびとは、神の免罪の方法の前に、たじろがなかった。よきオリブのやさしい枝のごとく、かれらの熱烈ないのりとなみだによって、邪悪な性質の圧力の下にあって、救済の夏 (summer of redemption) が、とぐちまで、ちかすいてくる (nigh, even at the door) と声明するひとは、この時代には、ずいぶんと、いたのである。

しかしながら、これでは、あまりに抽象的である。すくなくとも、わたくしには、そう、おもわれる。わたくしは、それでは、満足できない。そのことは、さきに、シエーカーズの東部地方への巡錫の行脚の場合と、おなじである。もともと、このたびの場合は、年代記には、つぎのごとき記述がみられる。

このケンタッキー、および、その附近における異常なわが(Work)の概略は、リチャード・マクネマー(Richard M'Nemar) が一八〇七年にあらわした「ケンタッキー復興」(Kentucky Revival) というパンフレットにおいてみることができ、それに、あかしの滲透進行と、いづわりの教師たちからうけた反響がええられている。

しかし、そのパンフレットは、いま、わたくしの手許にはない。だから、わたくしは、この点、他の資料によらねばならない。さきの東部地方の巡錫に関する場合には、わたくしは、さいわいにして、ウェッパー氏の著書に恵に浴することができた。しかし、このたびは、そうはいかない。というのは、ウェッパー氏は、それについては、ただ、つぎのごとくいっているに、すぎない、からである。

布教師ブキョウシたちの何名かが、ケンタッキーにでかけた。そこは、大復興(The Great Revival)の最中であつた。シェーカーズは、キャンブ・ミーチングの千年王國の熱狂的な雰囲氣にたじろぐことはなかつた。その、キャンブ・ミーチングには、タバコを吐きちらかす開拓者カハクシャとその妻子たちが、おしかけて、恍惚となり、躍動けいれんし、妖鬼と化し、頭をうちつづけるさわぎを現出したが、それらは、みな、受験者サクレテウたちの中に聖靈のいますことのあらわれである、と、もったいぶって、いわれたものである。

しかしながら、わたくしにとつて、よろこばしいことには、ここに、ねがつたり・かなつたりの資料があることである。ついでながら、その資料には、わたくしにとつて、こころたのしいおもいでが、ひめられている。こころたのしいおもいで、というのは、こうである。わたくしは、一九五九年の四月下旬、レキシントン大学でひらかれたある国際学会にまねかれた。レキシントン郊外のプレザントヒル(Pleasant Hill)にはシェーカーズの遺蹟がある。わたくしは、レキシントン滞在中の一日、そこをおとづれた。それはいうまでもないところである。大学の・ある・プロヘッサーが、わたくしのための、東道の主人。レキシントン郊外のひろびろした原野をドライブした。その爽やかなきもちは、いまに、わすれがたいところである。だが、それにおとらず、うれしかったことは、そのおり、その教授から、そのすこしまえに・シェーカーズのことをかいた本が出たことを、きいたことであつた。わたくしは、その本を、大学のライブラリーから借り出してもらつた。そして、さつそく、それをひもといた。そして、ときのためのもわすれて、夜をふかした。ここに資料というのは、すなわち、その本である。題して、「Believers」という。著者は閨秀作家である。ジャニス・ホルト・ジャイルス(Janice Holt Giles)というのが、その名である。同女史には同地方の開拓者をとりあつた一連の歴史小説がある。そして、本書は、その中の一つである。そのことは、同書のカバーの記載であきらかである。もとより、それは一つの小説である。しかし、それは、よくしら

べた小説である。そのことは著者が序文につきのごとくいっているによりてもうかがうことができるであろう。

中心人物は、みな、創作である。しかし、布教師のブラザー・ベンジャミン (Brother Benjamin) ・ブラザー・ランキン (Brother Rankin) ・シスター・モリー (Sister Molly) は実在の人物である。いろいろの新聞・日記類・伝記・および、現地の踏査から、わたくしは、当時の日常生活をそのまま再現しようとしたところを見た。プロットにおりこまれたいろいろのできごとは、たいいてい、実際あったことにもとづいている。それらのできごとは、すべてがサウス・ユニオンでおこったわけではない。しかし、シェーカー・ビレッジ (Shaker Village) の、あるところで、あるとき、あるひたに、実際におこったことである。¹⁰⁾

そして、読者が、もし、すぐあとで引用するはずの、シェーカーズのミッシェナリーズの登場の場面を、さきに引用した¹¹⁾、年代記のシェーカーズのミッシェナリーズを派遣した記録と対照せられるならば、そこに、著者の右にいつていることの一証左をみいだすことができるであろう。さらに、この書には、ブラザー・ベンジャミンのことを述べている。そして、そこで、「われわれがマザー・ランのあかしとよんでいる「キリスト再来のあかし」 (The Testimony of Christ's Second Appearing) という本を執筆したのはかれである」といつている。¹²⁾そして、事実、同書の序文の執筆者の名の中に、かれのそれをみいだすことができる。そうみてくると、著者の言のひとをあざむかざるを知るの感をふかくするものは、ひとり、わたくしのみには、かぎらないことになるであろう。

はなしが、すこし、わきみちに、それすぎたようである。ほんすじにたちかえることにしよう。

そこで、わたくしは、この小説によって、シェーカーズの西部進出のようをうかがおうとするのである。それでは、それは、いかに、あったか。かの女は、序文のなかに、こうしている。

一八〇〇年ころ、南ケンタッキーのガスパー河 (The Gasper River) のほとりに、宗教の火がともされた。そ

れは、はじめは、一つのささやかな火であった。しかしながら、テネッシー (Tennessee) から来た二人の兄弟の強烈な情熱にあおられて、もえあがった。そして、燎原の火のごとく、たちまちのうちに、テネッシー全州を一なめにした。さらに、勢のおよぶところ、南部ののこりの地域の大半にひろがった。世に「大復興」(The Great Revival) とよばれるものがこれである。

このような説教、このような情熱、このような宗教における熱中 (Zeal in religion) は、かつてみないところのものであった。ひとびとは、それにとりつかれて、夢中になった。そして、からだをけいれんさせ、ふるわせた。回教の托鉢僧 (dervishes) のように、おどり、わけのわからぬことを・しゃべり、泣き、わめいた。けど、ものように、え、はいまわり、のたうちまわった。そして、恍惚無我の状態におちいった。その関心は非常に大きかった。その伝播は非常に早かった。そのため、二年のうちに、これらのリバイバルをめぐりあうためにあつまった群集の数は二〇、〇〇〇・一五、〇〇〇・二〇、〇〇〇におよんだ。それは既成宗派 (established churches) 内に分裂をひきおこし、いくたのあたらしい宗派をうみ出した。そして、それは、そのつめあとを、いま、なお、ケンタッキー、テネッシー両州の山間に、のこしている……¹⁴⁾

ほとんど、これと、おなじことを、作中の人物の口からも、きくことが、できる。すなわち、一八〇〇年の春のころ、牧師のランキン (John Rankin) が、つぎのようにかたつてゐる。

二人の兄弟がふたなつまえに (two summers ago)、テネッシーからやっできて、聖礼典のあつまり (the sacramental meeting) で説教をしました。あのような説教は、わたしは、これまで、みたことも、きいたことも、ありません。あつまったひとびとの反応には、わたくし、びっくりしました。かれらは、感動のあまり、ふしぎなことをくちばしり、おかしなみぶりをしまし

た。そして、例の二人は、非常な確信をもち、非常に力をこめて、説教しました。そのため、その説教がすむと、へとへとになつていました。わたくしはといへば、(と、かれは、かたりつづけた) わたくしは、そのおり、わたくしにとっては、もっとも奇異な感情に、みまわれました (I myself had a visitation most strange to me at the time)。わたくしは、いつものくせで、わたくしの説教を、ねんをいれて、準備をしておいたのでした。しかし、わたくしの番がきて、立って説教する段になると、わたくしの口をついて出ることは、わたくしが、かんがえたものでもなければ、わたくしが、つくつたものでもありませんでした。わたくしは、わたくしがなにをいったかを、ほとんど、しりませんでした。そのよつてきたところが、神よりであることは、あまりにも、あきらかなることです。わたくしは、ただ単に、神の口 (the mouthpiece of the Lord) になつたにすぎません。神 (H) が、わたくしを通じて、かたられたのです。こんなことつて、かつて、ないことでした。わたくしは、かつ、なき、かつ、とき、かつ、さげんで、いる・わたくしを、みいだしたものです。それまで、わたくしは、そういうことは、説教の場合、醜態だとかんがえていたものです。しかし、わたくしは、歓喜と名状しがたい感情におほれていたのです。¹⁵⁾

ところで、これほどのできごとが、ひとびとの関心をそそらぬはずはあるまい。ひとびとは、よると、さむると、このことについてのはなしで、もちきりであつた。そう、かんがえても、よいであろう。そう、かんがえても、すこしも、かんがえずすこしとはなるまい。もし、それをいなむひとがあるなら、そのひとに、わたくしは、おなじ本の中から、さらに、つぎの会話を引いてしめすであろう。それは、ガスパー河から当時の交通状態で四日の行程にあるリンコルン州のディット河のハンギングフォークのほとり (in Lincoln County on the Hanging Fork of Dick's River) でかわされたものである。まづ、かたるのは、本編の女主人公のレベッカ・ファウラー (Rebecca Fowler) 相手はその妹のジャーニー (Janie)。

——ランキンさんはプレスビテリアンを脱退してあたらしいひかり、(the New Lights) にはいられたというはなしが
よ。

——しってるわよ。……それはそうと、ローガン州 (Logan County) では、一体、なにがおきているのかしら。おとう
さんが、それについて、なにか、おっしゃってるのを、きいたんですけれど……

——ああ。あそこでは、大きなミールがあらうのよ——聖礼典にね。先日ここを通過して行ったひとが、はなしてたわよ。こ
の夏、また、大きなミーチングをもとうと、しているんですって。そのひと、いったわ。とても信じられないほど大きなもの
だって。ひとびとは、靈感をうけて、あつまり、身をふるわし、しゃべり、おどり、わめくんですって。説教者たちは、いっ
るそうよ。この国でこれまでになかったほど偉大な霊のめざめで、テネッシー全体、それに、ケンタッキーにも、ひろがって行
っているって。そのひと、そう、いって、いたわ。

——わたくしには、ばからしく、きこえてよ。だって、あんな地方にどんな期待がもてて。悪党の巢窟 (Rogues Harbor) に
やないの。……

——何百人というひとびとが同時に靈感を受けているのを、みるのは、ちょっとしたものね。説教は一日中おこなわれると、い
うことよ。そして、ひとびとは、近郷近在、いたるところから、あつまりてきて、あつまりのある四日のあいだ、ずっと、滞在
して、うなったり、おどったりするというは、なしよ。それが、夜までつづくんですって。リチャード (Richard) も、行きたが
っているようよ。

——リチャードなら、そうでしょうね。リチャードも、かぶれてしまったのかも、しれないわね。

——まあ、そんなことないわ。リチャードは、とても、善良なプレスビテリアンですもの。

——ランキン牧師だって、そうだったわ。

——でも、リチャードはランキン牧師とは、ちがうわ。

——たいして、ちがいは、しないわ。かれ、とても、牧師の風があるわ。わたくしには、そう、みえるわ。¹⁶⁾

レベッカはガスパー河畔のリバイバル・ミーチングについて、それをみるのも、ちよつとしたものである、と、いう。しかし、わたくしにとつては、それをうかがうのは、ちよつとしたものであるどころのはなしではない。それこそが当面の問題である。だから、わたくしは、それについて、さらに、くわしく、しりたい。いな、しらべねばならない。さいわい、レベッカをあやつる運命は、やがて、かの女を、そのおつとのリチャードとともに、ガスパー河畔のリバイバルのミーチングに参加させることになる。そして、かの女は、それについて、かたっている。そこで、わたくしは、それを、きくことに、しよう。かの女はかたる。

わたしたちがガスパー河のミーチングの場所についたときには、大群集が、すでに、あつまっていた。わたくしは、レキシントンの姓かでは、まだ、このようにたくさんひとがあつまっているのを、みたことはなかった。荷馬車^{ワゴンズ}や二輪軽馬車^{ツェグ}が、周囲にたてこんで、かきのようにあつた。ひとびとは、あち、こち、から、きており、四日間のミーチングのために、地面にしいたり・荷馬車の中にのべる・ねどこと、そのあいだをささえるだけのたべものを、用意していた。ワゴンやカートは、いづれも、それぞれ、ちいさなキャンプの中心になっていた。……

ひとが、あまりにも多かったので、あたらしい説教の家には、はいりきれなかった。そこで、説教は戸外^{オウズ}でおこなわれることになった。四方からもつてきたまるで、ブラットフォームが二つ、ひろばの両端にたてられた。これは、こどもづれの家族には便利であつた。こどもらを、ひろばのまわり、に陣取つた荷馬車の中のベッドに、ねかせておくことが、できた。それで、ははあやたちは、こどもらが、そばで、心配がないことが、わかつていたので、

説教をききつづけることができた。

かの女たちが、まるたや荷馬車のはしにこしをかけて、ちのみごをむねにだき、としかさの子にはトーモロコンパン (corn pone) を、さしだしたり、てわたしたり、しながら、注意だけは説教者にむけて、熱心に説教に耳をかたむけている光景が、随所にくりひろげられていた。

最初の説教は、その翌日の朝、はじまった。四人の説教者たちが、かわるがわる説教をした。それは終日ぶつとおしにおこなわれた。止午に、一回、ひとびとが、食事を取り、しばらく休息するために、中止があった。それから、また、説教がつづけられた。その日のおわりに、わたくしは、失望を感じた。それは、わたくしたちの教会における終日のおつまり (an all-day meeting) と、ほんんど、かわりがなかったからである。昂奮の兆はなかった。ゆうげのおりに、わたくしは、そのことを、いった。パーミラ (Permylla) が、わたくしに、「発作のおこるの、晩のミーチングだと、いうことです。きっと、今晚、おこることでしょう。」と、いった。

かの女のいったとおりであった。松のかがりびが、ともされ、東側のプラットフォームのそばに、おかれた。そのわけは、説教者は、晩は、その一方のプラットフォームだけで、かわるがわる説教したからである。夜に入り、暗黒が森林や牧場をおおい、松のかがりびが、あかあかと、ひとびとのかおをてらすと、説教者たちは、ふるいたたされたように、みうけられた。

はじめは、説教者たちは、いづれも、長い説教をしなかった。かなり、はやめに、つぎのものに席をゆづった。説教におとらぬほど、うたがうたわれた。説教者たちは、説教を、みじかく、きりあげて、うたに、くわわった。そのうたは、わたくしには、みみなれないもので、あった。教会の壮重な讚美歌にくらべると、ずっと、はやい調子

で、うたわれた。だが、ひとびとのうちには、きつと、すでにしつているにちがいないものも、いた。なぜなら、それらのひとびとは、まつてましたというように、すぐに、いっしょに、うたいだしたからである。ひとびとは、うたいながら、ゆれうごいた。そして、手をたたいた。あるものは、ときどき、「ありがたやー」(Glory)と、さげんだ。しかし、わたくしたちが、ひとびとのかおに、期待と昂奮のいろをみたのは、ひるまは一度も説教をしたことのないひとりの説教者が、たちあがつて、前而に歩をはこんだときのことであった。これこそ、ひとびとが、その説教をきくためにあつまつてきた、めあてのひとつであった。たしかに……かれらが、まちうけていた・ひとに、ちがひなかつた。「あれは、たれですか？」と、わたくしは、パーミラに、ささやいた。わたくしたちは、わざと、ひとごみのはづれのところに、たちどまつていた。それは、よりよくみることができるとためであった。

「テネッシーから来た兄弟の一人よ。……どちらの方かはしらないけれど……」

わたくしたちは、たつたままで、いた。群集が、いまや、たちあがつたからである。

そのおとこは、たけがたかく、やせていた。かおいろはくろく、まゆがこゆかつた。しばらく、かたく、ちをむすんで、ひとびとをにらみつけていた。それから、銃をつきつけるようなかっこうに、うでをあげて、かれらにむけて、さし出した。そして、さげんだ。「おまえたちの運命はきわまつているぞ(“ye are doomed”)。そして、おまえたちをまつているものは地獄の火だ。」群集の中からうめきごえがあがつた。かれらのなかの、どこかで、ひとりのおんなが、かなきりごえをあげた。「おまえたちの運命は、きわまつているぞー」と、かれは、くりかえした。かれのごえは、おもおもしろく、ゆたかであった。そして、四辺の森林に、ひびきわたった。……

かれが、どれだけながく、説教したか、わたくしは、おぼえていない。時間の感覚が、まつたく、なくなつて、

しまった。なぜかなれば、かれの最初のことばから一五分しないうちに、われわれは、ランキンが、きつとみられる、と、約束したところのものを、みただけである。わたくしたちは、みた。ひとびとが、両手をあげ、ぐるぐる乱舞し、地上にたおれ、死んだように、じつとよこたわったのを。わたくしたちは、みた。かれらが、しかばねのように硬直したままで、はこび去られ、ふみつけられることのない場所に、よこたえられたのを。

わたくしたちは、みた。わたくしたちから、あまりとおくなく、たつていた、ひとりのおんなが、けいれんにとりつかれたのを。それは、かの女のあたまから、はじまった。まづ、くびが、びくびくと、けいれんをおこした。わたくしは、そのくびがおれるのではないかと、おもった。それから、うでと手にひろがり、さらに、からだじゅうにおよび、しまいに、関節がばらばらになつたような状態におちいつた。かの女のそばに立っていたおとこ——わたくしは、かれをかのおつとだとおもつた——が、かの女を、まわりの群集からまもるように、努力し、やつと、かの女を、ブラッドフォームと説教者の方へ、つれて行つた。

わたくしたちは、みた。ひとびとが、わきたち、ゆるいテンポの、おどりを、はじめたのを。それは、ときに、速度をまし、しまいに、はげしく、ゆれうごいた。それから、わたくしたちには、ひとびとのしゃべる、おかしな・わけのわからない、こえが、きこえはじめた。わたくしは、めんくらしい、ときまぎし、とほうにくれ、ふしぎなところで、ふしぎなめにあう、おもいがした。

リチャードが、ひしで、わたくしを、そつと、おして、いつた。「はしの方をまわつて、まえの方へ行こう。このようにさわがしくては、説教者のこえがきこえない。」……

わたくしたちは、ブラッドフォームのちかくに、場所をみいだした。たぐさんのひとびとが、たおれてしまった

ので、あきまができていたのである。プラットフォームのすぐまゝのところ、まゝにできていたひとびとが、ふみあらされたくさのなかに、ひざまづいて、なき・わめき・おどりながら、いのつたり、いのつてもらったりしていた。説教者はそのひとびとをみおろしながら、懸命に、あがめ、うたい、いのつていた。¹⁷⁾

まことに、みごとに描写である。リバイバルのミーチングをまのあたりにするおもしろいものは、わたくしだけにとどまらないであらう。いかに多くのひとびとが、いかに昂奮のうづにまきこまれたかは、もはや、想像にたかなくともあらう。しかし、ついでだから、レベッカとリチャードの夫妻の反応をうかがってみよう。

リチャードはこのムードにまきこまれてしまう。プラットフォームのそばにでてきたかれは、やがて、みをした。夢中になって、みとれ、ききほれる。説教者のことばがかれのところにいくいと、かおいろがかわる。

「かれにはちからがある。ほんとに、ちからがある」と、つぶやく。それから、突然、まゝにすすむ。そして、「いのつてもらいに行く」といって、プラットフォームのまゝでひざまづいているひとびとの方に行く。そして、ひざまづいて、熱心にいのりつづける。あせがかおになされる。くちびるがうごく。ながいふるえがかれのからだをはしる。そして、パツパツと、まゝにたおれる。しかし、その夜は、それ以上の験は、リチャードには、あらわれなかつた。ついに、非常につかれきって、キャンブにかえる。そして、とこにつくとき、「あかんぼうのように、ぐにやぐにやになった。ちからがぬけてしまった。そんな気がする」という。しかし、最後の四日目の晩のミーチングでは、レベッカは、ふだん、きわめて、しづかで、まじめな、かの女のおつとが、はしりまわり、けいれんし、ぐるぐるまわるひとになりおわり、わらい、なき、歓喜を満面にたたえて、わけのわからぬさけびをはりあげるのを見る。¹⁸⁾かくて、かれは、このリバイバル・ムーブメントの中にいりこむ。そして、ついに、シエーカーズに帰依する

ことになるのである。

だが、レベッカは、ちがう。つれのペーミラから「この光景をみて、どうおもうか」と、とわれて、「わたしには、わからない」と、こたえる。ペーミラが、「望感のはたらきと、いうことだが」と、いう。しかしかの女は、ミセエ「望感」のはたらきなどしらない。かの女はものごころのつかぬうちに両親に洗礼をうけさせられ、聖約の子 (a child of the covenant) であると信ずるようになだてられた。かの女は、神のたまごときよめ (predestination and sanctification) によって、じぶんが、えらびずくわれるもの一人である、ということを知り、うたがったことがない。スピリットによってうごかされるということは、かの女のおもいもつかぬところであった。しかし、ここで、かの女はうたがう。いままでおしえられてきたことは、すべて、あやまりではなからうか？ ランキン氏は、じぶんのあやまりがわかった、と、いったではないか？ そして、かれは牧師ではないか？ かくて、かの女は、すこし、不安をおぼえる。しかし、けつきよく、かの女は、おつとにしたがって、ガスパー河畔にうつり住む。それをきいて、かの女の妹のジャーニーが母へ手紙を書く、そして、「かれらは、気がくるうたのではないか」とたづねる。また、別の手紙では、「国中を風靡しているリバイブルズの波にのまれるものが、すぐ・じぶんの感情におぼれる・無智蒙昧のやからであることは、知性のあるひとなら、だれでもしっているところですよ」という。それに對して、かの女は「もちろん、それは感情的かも知らない。しかし、真実の宗教の中に感情が存在する余地がないと、だれがいうことができようか」と反撥を感ずる。かの女は、タやがて、シジャーニー・ビリッジの住人となる。しかし、後、おつととわかれ、シジャーニー・ビリッジをたちさる。

以上、われわれは、西・南部におけるゆるいリバイブル・ムーブメントをうかがった。うかがえば、うかがう

ほど、わたくしは、それが、すくなくともそのあつまりのシーンにおいてみるかぎり、シエーカーズのそれに酷似するところあることを、みとめざるを得ない。いな、以上のごときシーンをみていると、わたくしは、シエーカーズのそれをみているかのごとき錯覚をすら、おぼえないわけにはいかない。そして、そのような錯覚をおぼえるのは、ひとりわたくしのみでは、あるまい、と、おもうが、どうであらうか。

もちろん、このような、事情が、東部地方につたわらぬはずはない。それはシエーカーズの耳にもはいつたはずである。そして、それがシエーカーズの耳にはいるとき、かれらが、それに乘じて、そこに、進出してくることは、あやしむをもちいないところであらう。はたして、かれらは進出してきた。

では、かれらはいかに進出してきたか。

かれらは、まづ、布教師を派遣した。それは、さきにも、ふれたところである。しかし、われわれは、ここで、われわれのさきにあげた資料によつて、さらに、すこしく、たちいって、それを、うかがつてみよう。われわれのヒロイン、レベッカは、こののべている。

「かれらは、やつてきた。……一八〇七年の一〇月に。わたくしは、その日をおぼえている。あれは、その月の一七日であつた。秋ではこれ以上よい日はないというほどよい日であつた。太陽はあたたかく、あざやかに、空気は澄み、かつ、すがすがしかつた。」ちようど、かの女は洗濯をしていた。そこへ三人のよそものがきた。それが、シエーカーズのミッシュォナリーズであつたのである。イサカル・ヘート、リチャード・マクネマー (Richard McNemar) さよびマッシュェー・ハウストン (Mathew Houston) の三人である。* かれらは、われわれには、すでに、おなじみの、牧師ランキンの、家をたづねる。そして、あつまりのために、家をかりたいともうしこむ。ラ

ンキン牧師は、はじめ、ちよつと、ためらう。しかし、ジョン・スロース(John Sloss)というものが、じぶんの家を提供する。そして、その翌日、あつまりがもたれる。そこで、マクネマールがシェーカーリズムを説く。レベッカも、ランキン、リチャードとともに、それをきく。そして、それについて、こういう。

わたくしたちが、その夜きいたものは、ふしぎなおつげ「メッセージ」であった。リチャード・マクネマールが、はなしをしたが、わたくしは、うまれてからこのかた、これほどの雄弁家を見たことがない。かれの態度はきもちがよかつた。しかしかれは學者であつた。そして、大衆にはなしかけるこつを、よく、こころえていた。かれには、あなたがたをひきつけるなにものがあつた。あなたがたは、しづかにすわつて、かれにのみみをかたむけ、一語をもききもらすまいとする……²²⁾

それでは、マクネマールは、その夜いかなることをはなしたか。そのはなしの内容は、どういうことがらであつたか。レベッカは、ことばを、つづける。

かれは、わたくしたちに、ビリーバーズについて、また、かれらの教祖「グレイ」のマザー・アンについて、かたつた。かれは、かの女が、その、いまだ、わかかりし日に、イングランドにおいて、いかに、靈火を感じたか、また、いかに、迫害をかうむつたか、その迫害を、いかに、あだかも、かの女と迫害者の間に神の愛が介在したかのごとく、無事に、きりぬけたか、について、かたつた。そして、かの女が牢獄にあつて、いかに、あたらしい信仰に入るべきか、かすのヴィジョンをみ、啓示をうけたかを……²³⁾

かの女のことばは、なおつづく。しかし、それによつて、しりうることは、その夜、マ・ネマールがかたつたことは、要するに、すべてマザー・アン一代の事蹟であるということである。それなら、それは、われわれのすでにみたところに、ほかならない。したがつて、ここに、くりかえす要はあるまい。だから、わたくしは、さきに、す

すむであらう。

さて、これを、かきりとして、かれらは、毎夜、あつまりをもつた。たれかの家があつまりの家にあてられた。そして、ひとびとは、そこに、行つた。そして、そこで、説教をきいた。そして、奇妙な運動エリサイヤエスがおこなわれた。それは、手と腕をさかんにふりながら、前後におどるものである。そう、レベッカはいつている。この、からだをふるわす運動を説明するのに、かれらは聖書を引用していつた。「万軍のエホバかくいひ給う、われいま一度ひとたびしばらくありてわれ天と地と海と陸とを震動ふるはん、又われ万国を震動ふるはん」と。そして、マクネールは、いつた。「つみとあやまりをふるいおとせ、すべてのあしきならいをふるいされ」と。かれが、そう、いつて、両手をふりおろしたとき、レベッカは、あやまりが、かれのからだから、ふるいおとされて行くのがみえるような気がした、と、いつている。²⁴⁾

それから、また、かれは、ランキンスの、いにこたえて、シニールズの根本教理を説いて四原理をあげる。いわく、ざんげ、いわく、独身、いわく、遁世、いわく、共産 (confession of sin, celibacy, withdrawal from the world, and common ownership of property.)²⁵⁾

ただし、これは、さきに、たびたび、ふれたように、ルーシイの主宰した時代に確立したものである。そして、それは、われわれは、すでに、しばしばいつたように、いづれ、項をあらためて、うかがうはずである。だから、ここでは、それ以上、この点について、たちらないであらう。ただ、はなしの必要上、しるすにどめたのにすぎない。「きくわたくしたちは」と、レベッカは、いつている。「夫婦子供家族ぐるみであつまつた。そして、あつげにとられて、きいていた。」²⁶⁾と。

最初に帰依したのはジョン・マコンブ (John McComb) であった。²⁷⁾

やがて、リチャード、夫妻も、ランキンおよび、その他の二名とともに、それにつづいた。²⁸⁾

ミッシュォナリーズは一月滞在した。その間に帰依するものは、二〇人にのぼった。²⁹⁾ 当分の間は、ランキンがかれらの主宰者とさだめられた。しかし、本部から、ときどき、たれかがきて、説教をし、面倒をみるはづであった。³⁰⁾

やがて、オハイオのユニオン・ビルッジ (Union Village in Ohio) のラビッド・ダロー (David Darrow) というひとが、西部の総帥となった。かれは、ニューヨーク州ニューヨークの本山 (Mother Colony) から派遣されたものである。³¹⁾ そして、さらに数名が、かれの補助におくられてきた。ブラザー・ベンジャミンは、その中の一人である。かれがついたのは、一八〇九年五月のことである。そして、かれの存在は、この地方の信徒の団結強化に大きなはたらきをする。かれは、学識と実行力をかねそなえていた。そして、シェーカーのむら、づ、くりをほじめる。³²⁾ そして、二つのコミュニティーがケンタッキーにできあがる。一つは、ショーニー・ランのハロッドバーグのちかくに (near Harrodsburg on Shawnee Run) できた。これはプレザント・ヒルと、よばれた。いま一つは、ボーリング・グリーン³³⁾の南西 (south west of Bowling Green) 、「ガスパー河畔」に、できた。その名をサウス・ユニオン (South Union) と、よぶ。³⁴⁾

ついでながら、わたくしが、ここに、あげた、「ビリーバーズ」一巻は、実に、「このサウス・ユニオンを舞台とするものがたりである」³⁵⁾。したがって、ここに引いたシェーカーズの南・西部への進出に関する記録は、ほとんど、サウス・ユニオンに関するものにはかならない、と、いうことになる。「それでは」と、ひとは、いうかも知れない。「シェーカーズの西・南部への進出をうかがうといいながら、実は、その一局面をうかがったにすぎな

いのではないか。」と。そういうそしりを、まぬがれるわけにゆかぬであろう。そういわれれば、そのとおりである。わたくしは、あまんじて、そのそしりを受けよう。しかしながら、わたくしは、かんがえる。この場合、一面をくわしくながめることは、やがて、全局面を想察せしむるに、たることに、なるであろう、と。そう、かんがえることは、ゆるされるところであろう。そして、それがゆるされるなら、シェーカーズの西・南部えの進出をうかがおうとするわたくしの目的は、ここに、達せられたということに、なるでも、あろう。そう、いつても、よからう。すくなくとも、わたくしは、そう、おもう。

それにしても、それでは、それらのコンミニチーズはいかになりつつたか。そして、いかなる運命がその前途によこたわつていたか。それが問題とならう。しかしながら、これらのコンミニチーズの運命は、そのなりたちとせきはなしては、あきらかにすることが、できない。そして、そのなりたちは、シェーカーズムの原理・秩序・組織のあらわれにほかならない。しかるに、シェーカーズムの原理・秩序・組織は、ルーシイの主宰した時代に確立したところに属する。そして、それをうかがうことは、しばらく、あとまわしにしておいたところである。そのことは、本項のはじめにも、いっておいたところのごとくである。だから、われわれは、つぎに、項をあらためて、シェーカーズの原理・秩序・組織をうかがうであろう。

ともかく、かくて、わたくしは、シェーカーズの西・南部えの進出を叙するわたくしのペンを、ここにおく。

* 本部より西・南部へ派遣された三人のミッシェナリーズの中の二人が、さきに引いた「年代記」と、ここに引く「ピリーバーズ」とでは、ことなっている。おもうに、西部へは三人派遣せられたが、かれらは、まづ、オハイオにおいて、ユニオン・ピリツジをかため、それより、さらに、ガスパー河畔へ、進出した。そのとき、人がいれかわつたものであろうか。そうすれ

は、「年代記」も「トリーパーズ」も、いづれも、まわがては、いないことになる。あとも、メンシキミン・ヤングスが
 の地へ派遣されてくることは、「トリーパーズ」に見えること、後に引くところのことである。

- (1) 拙稿、シエーカーズ、七、本誌・第九三卷・第四号、(昭和三八・二〇)
 (2) 同上、六、同上。
 (3) *The Columbia Encyclopedia*, "revival".
 (4) *Testimony of Christ's Second Appearing*, p. 630.
 (5) (2)をみよ。
 (6) *Testimony of Christ's Second Appearing*, p. 630.
 (7) (2)をみよ。
 (8) Everett Webber, *Escape to Utopia*, p. 56.
 (9) Janice Holt Giles, *The Believers*, Houghton Mifflin Company, Boston, The Riverside Press, Cambridge, 1957.
 (10) *ibid.*, pp. vii-viii.
 (11) 本誌・本号・本節。
 (12) Janice Holt Giles, *ibid.*, p. 104.
 (13) *The Testimony of Christ's Second Appearing*, pp. vi, xiv.
 (14) Janice Holt Giles, *ibid.*, p. vii.
 (15) *ibid.*, p. 47. (16) *ibid.*, p. 39.
 (17) *ibid.*, p.p. 50-58. (18) *ibid.*, p.p. 60-61.
 (19) *ibid.*, p.p. 58-60. (20) *ibid.*, p. 80.
 (21) *ibid.*, p. 85. (22) *ibid.*
 (23) *ibid.*, (24) *ibid.*, p.p. 86-87.

- ㉔ *ibid.*, p. 88.
- ㉕ *ibid.*, p. 91.
- ㉖ *ibid.*, p. 97.
- ㉗ *ibid.*, p. 104.
- ㉘ *ibid.*
- ㉙ *ibid.*

- ㉚ *ibid.*, p. 89.
- ㉛ *ibid.*, p. 96.
- ㉜ *ibid.*, p. 98.
- ㉝ *ibid.*
- ㉞ *ibid.*, p. vii.